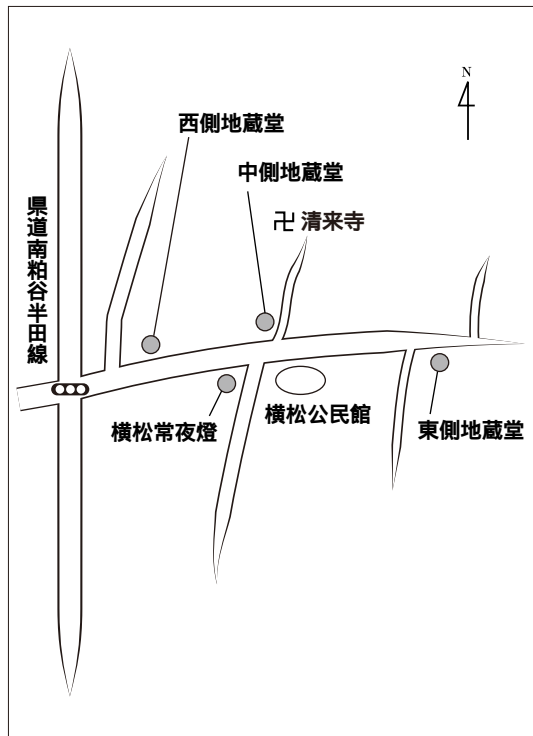
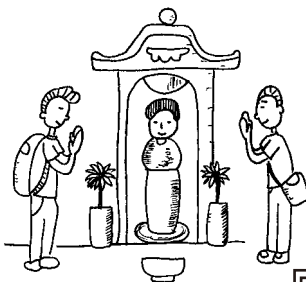


# シリーズ

## 阿久比を歩く ⑬④



重厚感漂う瓦が乗る入母屋造の屋根

田んぼのあぜ道に、ヒガンバナが咲く。「暑さ寒さも彼岸まで」。昔の人はうまいことを言う。彼岸を過ぎて暑さも少し和らぎ、めつぼう過こしやすい季節となった。横松地区の地蔵堂を友人と二人で訪ねた。県道南粕谷半田線を横松交差点南の信号から東に入った、横松地区のメインストリート沿いに三つの地蔵堂が存在。一番西にある地蔵堂を見

### 建造物を見る（横松地蔵堂）

あ

ぐ

い

ぶ

ら

り

旅

木造瓦葺入母屋造で江戸時代後期の建築。面積が約二十平方メートルで、屋根には重厚感漂う瓦が乗る。南北の棟の両端には鬼瓦。鬼瓦の邪気を取り除くためか、以前白沢地区で調べたにらみ返し（鍾馗の人形）が、南北の向かいの民家に一つずつ見られる。地蔵堂近くを通りかかった男性に声を掛ける。いわれなどを聞いてみた。「わしのうちもそうだけど、この辺の人で、『地蔵さん』に『おぼくさん』をあげとるよ」地元では地蔵堂のことを「地蔵さん」と呼び、近くに住む人々で順番に、ご飯と水供える慣習が続く。毎年八月十七日の夕方、お堂近くに住む女性たちが集まって供養が営まれる。地蔵堂の扉を開けてもらい、中を見る。地蔵と高さ十センチほどの数多くの仏像が安置される。仏像には亡くなった先祖の名前が書かれているようだ。

男性と話をしているうちに、近所の女性たちも会話に加わる。「夏、みんなが集まるときは、お寺の『おっさん』に、お経をあげてもらったけど、今は自分たちで、テープをかけて、お参りしてるよ。明日は私のところが『おぼくさん』をあげる番だわ」「地蔵さんを大切に守っているんですね」と私たちが問い掛けると、「分かんけど、なんとなくなえ。まあ、昔からやっことをなかなかやめられんもんね。元気で健康に暮らせているし、近所も仲良くできるしねえ」。集まった人たちがお互いに顔を見合わせた瞬間、高らかな笑い声が地蔵堂の周りに響き渡った。いつの間にか、男性一人と女性三人、私と友人の六人が会話を交わしていた。しばらく皆さんの話に耳を傾けた。



地蔵堂の中に安置される地蔵と仏像